



未来の福島  
Fukushima Children's Fund  
こども基金

チェルノブイリから学び、子どもたちを守る

未来の福島こども基金 ニュースレター

from chernobyl No. 11

2016年  
3月発行

久米島には海と山がある  
登武那(とうんなは) 覇公園/2015年11月  
(沖縄・球美の里 51回目の保養)



内部被ばくのリスクを  
少しでも下げましょう。  
安心したところで  
友だちとリラックスして  
過ごすことによって免疫力  
は高まります。  
小児科医 黒部信一

私たちには、自分の命を  
守る権利がある。  
私たちには、子どもを守る  
義務がある。  
フォトジャーナリスト 広河隆一

チェルノブイリ30年・福島5年 救援キャンペーン  
小出裕章講演会&チャリティコンサート  
2016年4月23日(土)19:00開演(18:30開場)  
練馬文化センター 小ホール

同日開催 広河隆一写真展 11:00~17:00 同センターギャラリー

# 沖縄 球美の里 くみ 声

この冬休みは、年末と年始の2回に分けて保養が行われた。私は1月3日～11日の9日間の保養に参加。球美の里では53回目の保養になる。この回は、小・中学生46名（女子29名、男子17名）が参加。中学生は女子3名だけで、男子の参加者がいなかったが、部活などで来られないという意見も子どもたちから聞いた今回、特に風邪をひく子どもなく、みんな元気に帰ることができた。

今回は3か所の浜に行くことができた。冬は海の中には入らないが、貝や、サンゴを拾ってお土産に持ち帰ることができる。特に、船で行くハテの浜では、タカラガイというきれいな貝を拾うのに男子たちが夢中になっていた。



ある女の子が、拾った貝でブレスレットを作ったプレゼントしてくれた。



小中学生の回では、沖縄の歴史にふれる機

晴れたときは、庭でサッカーをしたり、岩山で鬼ごっこをしたりと、思い切り体を動かして遊べた。ただ今回は、天気の良い日もあり、新聞紙でスリッパを作ったり、折り紙をしたり、女の子たちは、ビーズや貝でブレスレットを作っていた。男の子たちはけん玉や、トランプをしていた。けん玉は、高学年の男子たちが、練習し、お別れ会で技を披露してくれた。

会も作っている。久米島にも、戦争で亡くなった島民の慰霊碑があり、球美の里のバスを運転してくれている方（\*）のご親戚も亡くなっていて、いつもお話をしていた。みんな真剣に話を聞いて、慰霊碑に手を合わせていた。帰った後、高学年の男子の子で、競争に行きたくない、と心配そうに言ってくる子もいた。

私が担当した低学年の男子の子たちは、歯磨きやお風呂、洗濯など生活面の指導が大変だった。服に名前を書いていない子がいたり、洗濯をうまく干せない子がいたり、日がたつにつれ、慣れてくると、お風呂に入りたくない、着替えたくないと言出す子も。でも、自ら歯磨きもお風呂もしっかりできてくる子も多く、洗濯も、特訓してきたよ。と言ってささっとする子、のせれば上手にできる子、丸めたままピンチに挟んでいく子など、さまざま面白かった。また、9日という短い間にも

かわらず、大人が指示しなくても、自分たちで掃除をしたり、出かける準備をしたりと、成長し、自主的に動く姿も見られた。日ごとに仲良くなり、ケンカもおきるが、大きい子たちは、自分たちで解決しようと考えたり、また、小さい子も話を聞くときはしっかりと聞いてくれた。帰る前日のアンケートでは、全部楽しかった、また来たい、など、嬉しい感想が多く書かれていた。

職員と、ボランティアを含めて、ミーティングを毎日行っているが、そこでは保養者の体調を全員で共有し、プログラムの反省点をあげ、次回に生かすようにしている。また、毎回、保養が終わった後に、職員とボランティアで、ミーティングを行い、改善点を洗い出して、工夫を重ねている。私は子どもの付き添いで先に帰ってしまったが、参加するボランティアの意識がとても高く、たくさん意見

がでる。

冬は特に感染症の対策が重要で、今回の水道が新しくでき、そこで手洗い、うがいをさせてから入室するようにした。何回も参加しているボランティアも多く、どうしたらもっと楽しんで元気になつて帰ってもらえるかと、真剣に話し合っている。

ほかのプログラムとしては、やちむん土炎房（＊運転手さん）でのシーサー作り、毎年お正月の回に行われるお餅つき、毎回感動のライブ「なんくるさんしん」による演奏と歌、「くめしゅわ」の方に教わる手話、海洋深層水の温浴施設「バーデハウス」、磯の生物観察では、ナマコやヒトデ、ウニなどがたくさんいる。

「ごはんとおやつは毎回手作り。本当に手間をかけて作ってくれる。また、食材は寄付されることも多く、たくさんの方に支えられているのを感じる。

報告 大場真喜子



★「沖縄・球美の里」は2012年7月、フォトジャーナリストの広河隆一（現 DAYS JAPAN 発行人）が中心となり、多くのみなさまの協力のもと沖縄県の久米島に設立した福島の子どものための保養施設です。毎回約10日間、福島からの子どもたちや保護者の方たち約50人を迎えています。オープンから本年2月までに子ども1900人、保護者480人が球美の里で保養しました。★

## ボランティア募集

保養は多くのボランティアの参加により、成り立っています。保養期間中+準備2日間、後片付け1日も含めた日程で参加できる方大歓迎です。

マニュアル(webに掲載)に記載の「球美の里の理念」に賛同いただける方は、応募用紙と写真付き履歴書を、メール・郵送・ファックスで東京本部までお送りください。追ってご連絡をさせていただきます。

認定NPO 法人 沖縄・球美の里 東京本部  
169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-19-7-702  
TEL:03-6205-6139 FAX:03-6205-6140  
Email: tokyo@kuminosato.net  
<http://www.kuminosato.com/>



宮崎駿さんがデザインしてくださった球美の里のロゴマークには「自然の力を受けてみんなで力を合わせて夢に向かって進む」という意味が込められています。

## 保養者募集&日程

- ❖第57次保養（ゴールデンウィーク保養）  
5/1～9 対象者：未就学児と母親、および保護者付き添いなしの小学生・中学生 募集終了
- ❖第58次保養  
5/16～23 対象者：未就学児と母親 募集終了
- ❖第59次保養  
6/8～21 対象者：未就学児と母親 募集中  
※小学校1年生と2年生のお子さまに限り、保護者と同伴で参加できます。
- ❖第60次保養  
6/30～7/7（仮日程）対象者：未就学児と母親 募集中  
※小学校1年生と2年生のお子さまに限り、保護者と同伴で参加できます。

☆子どもの費用は全額無料です。保護者は交通費のみ負担。滞在費は無料です。参加ご希望の方はいわき放射能市民測定室「たらちね」(TEL/FAX: 0246-92-2526)までお問合せください。